

「応援します!! あなたの農業」



あぐりサポートニュース

福島県農業振興公社だより

第 4 6 号 平成 2 7 年 3 月

発行元 福島市中町 8 番 2 号
公益財団法人福島県農業振興公社
TEL 024-521-9834 FAX 024-521-8277

平成 2 6 年度第 2 回 福島県農地集積団体連絡会議が開催されました。

平成27年2月10日(火)郡山市のJA郡山市日和田総合支店会議室において、福島県と公社の共催により、福島県、市町村、市町村農業委員会、農地利用集積円滑化団体等約130名の関係者が一同に会して「平成26年度第2回福島県農地集積団体連絡会議」を開催いたしました。

この会議は農地中間管理機構である公社と農地利用集積円滑化団体の連携強化を図り、本県農地利用集積の円滑な推進をすることを目的として開催しております。

会議に先立ち、当公社の松浦理事長、福島県農業担い手課大竹課長より挨拶がありました。



今回の会議は、福島市、喜多方市の発表による農地中間管理事業の取り組み方法等について事例研修をするとともに、農地中間管理事業推進上の報告事項の説明も行いました。

事例研修は、福島市が耕作放棄地対策と新規参

入の経営体導入を図る手法として農地中間管理事業を活用したこと。喜多方市は、市が独自に設置している担い手育成マネージャーを活用しながら人・農地プランの作成や農地中間管理事業の推進にあたっていることなどが発表され、他の市町村に参考となる示唆に富んだ内容でした。



報告事項については、(1)平成26年度農地中間管理事業の実施状況について、(2)平成27年度推進方策について、(3)平成27年度重点地区について、(4)平成27年度スケジュール、(5)事業実施に係る手続きについて、(6)業務委託についてなど公社からお知らせをし、(7)農地中間管理事業及び関連施策の推進については、福島県農業担い手課より報告がありました。また、質疑の中では、福島市や喜多方市の取り組みの具体的内容で意見交換がありました。

平成26年産米の 全量全袋検査等について

平成26年産米の放射性物質全量全袋検査の実施に当たり、生産者の皆様はもとより地域協議会の皆様には多大なるご協力をいただきありがとうございます。

この米の放射性物質全量全袋検査は本県産米の安全・安心の確保を図り、一層の信頼回復のため平成24年産米から実施してきたもので、3年目の取り組みとなりました。

平成26年産米の作付けに当たっては、「平成26年米に関する福島県管理計画」に基づき、稲の試験栽培を行う区域『農地保全・試験栽培区域』、作付け再開に向けた実証栽培を行う『作付再開準備区域』、全量生産出荷管理を行うことを前提に作付を再開する『全量生産出荷管理区域』、『その他の区域』に区分され、全量全袋検査を実施してきました。

26年産米の検査は平成26年8月21日から二本松市を皮切りに始まり、全量全袋検査も3年目ということで関係者の皆様の理解も深まり、大きなトラブルもなく順調に検査が進みました。

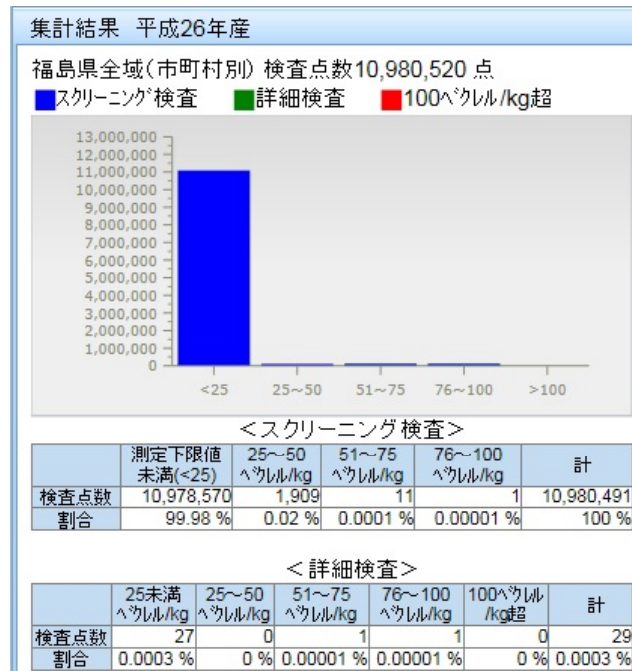
その結果、平成27年2月末日現在、約10,947千点と昨年同時期と比べ、約9千点多くなっています。

また、国が定めた食品中の放射性物質の基準値100Bq/kgを超えた玄米は24年産米では71袋/30kg、25年産米では28袋/30kg発現しましたが、26年産米では基準値を超えたものはなく、放射性物質の自然減衰を考慮しても米の放射性セシウム濃度は確実に減少しており、これまで技術対策として県が進めてきた吸収抑制対策としてのカリ施用の効果が出ていると言えます。

また、吸収抑制対策としてカリを上乗せしても食味値やタンパク質含量、収量への影響は見られないとの試験結果もあります。

このようなことから、県では27年産米の生産に当たっては引き続き安全な米が生産できるよう、

これまでの技術対策を継続することを基本とするとしています。



(恵みの協議会のホームページでお知らせ)

また、玄米の放射性物質検査が終わると検査済ラベルが貼付されますが、24年産は青系、25年産は大河ドラマ「八重の桜」にちなみ赤系、26年産は緑系と年産毎に変わっています。27年産は何色になるのか、興味があるところです。



なお、27年産米に係る放射性物質の検査や精米袋用ラベル貼付等の取組につきましては、26年産米と同様に行われる予定ですが詳細につきましては、いましばらくお待ちください。

東日本大震災、原発事故から4年を経過し、本県産農産物のより一層の信頼向上と安全・安心の確保のため「ふくしまの恵み安全対策協議会」は各種事業を実施することとしておりますので皆様の一層の御理解と御協力をお願いいたします。

育成センター

いわきの折笠明憲さん、 県知事賞を受賞！

～平成26年度『福島県農村青年会議』～

福島県農業青年クラブ連絡協議会と当社の主催による標記会議が、平成27年2月6日(金)の午後、郡山市労働福祉会館でクラブ員など65名が出席して開催されました。

会議は、クラブ員が設定した課題に取り組んだ成果等を発表する「プロジェクト発表」と農業に対する考えを発表する「意見発表」、及び「研修」の内容で実施されました。

「プロジェクト発表」では、いわき農業青年クラブ連絡協議会の折笠明憲さんが「中山間地域における飼料用米と稲わらロール生産の組合せによる所得向上計画」と題して発表し、中山間の条件不利地域に加えて米価下落という情勢の中で、地域全体を考えた耕畜連携による資源循環型農業の実践による所得向上の取り組みが高く評価され、最優秀賞（県知事賞）を受賞しました。



県知事賞を受賞した折笠明憲さん

また、「意見発表」では、いわき農業青年クラブ連絡協議会の蛭田秀史さんが「生産から販売まで」と題して、消費者と直に接し生産から出荷までのストーリーを知ってもらい、自分たちで農産物の値段を決められる経営をめざしたいと主張し、優秀賞（公社理事長賞）を受賞しました。両名は、今年の10月に秋田市で開催される東北大会に本県代表として出場することになりました。なお、その他の受賞者は次のとおりです。



プロジェクト・意見発表の会場

「プロジェクト発表」

優秀賞（公社理事長賞）

農業総合センター農業短期大学校：星 太介

優秀賞（農業青年クラブ連絡協議会長賞）

あいづ農業青年クラブ：小沼永治

「意見発表」

優秀賞（農業青年クラブ連絡協議会長賞）

須賀川4Hクラブ：鈴木人世

また、プロジェクト・意見発表に引き続き行われた『農業青年クラブ研修・ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動 農林水産業再生セミナー』では、ラジオ福島の大和田新アナウンサーが「伝えることの大切さ 伝わることの素晴らしさ～がんばろう！福島の農業」と題して講演し、クラブ員に熱いエールを送りました。

今号のコラム



温泉

我が福島県には名だたる温泉地がいくつかあります。私の父は大の温泉好きでして、暇さえあると一人で車を運転し、ひとつ風呂浴びてきては上機嫌です。

今度の冬は、寒さが厳しく足を運ぶ回数も増えてたようで、回数券を買って通ってました。ただ、温泉地は山間にあることが多く雪の心配もありましたが、これからはその心配も無く若葉を見ながらの露天風呂も又格別なものです。

この文章を書いていたら温泉に行きたくなりました。週末にでも行って、仕事のストレスを解消して、また頑張るとしましょう！

S T

— 利用者の声

「自分なりにできる事を探して」

いわき農業青年クラブ連絡協議会
下山田 善裕



主力品種のランタンキュラスに囲まれて(H27.2.25)

みなさん、こんにちは。いわき市で鉢花の栽培をしております、下山田善裕と申します。

私は震災があった2011年の4月に親元就農の形で農業を始めました。今年の1月に経営権を移譲されて、本格的に花作りに取り組んでいます。

十数年前から、花業界では市場規模の縮小(数字で表すと、国内の花弁総生産額はピークだった1998年の4,734億円から2012年には3,451億円で、14年間で27%も減少しているのです!)が問題視されてきました。その原因の1つとされているのが「若者の花離れ」です。先日行なわれた鉢花生産者の会合でも、「取引先から若者受けのする商品を作ってくれと言われたが、どんな花ならば若者受けするのか見当がつかない」という発言が聞かれました。私自身も就農する以前には花屋に行ったことなど一度もありませんでしたし、今でもプライベートで花を積極的に身近に置こうとは思いません。また、出荷時期を逃した花を学生時代の友人達に贈ろうとしても「世話ができないから」と断られることが大多数であることから、「若者の花離れ」を自分の事として感じています。

ここまで書くと、「花を好きだと言えない奴が一人前の花農家になれるのか」と思われる方も居られるかと思いますが、でも私は、農家の長男に生まれた以上は家業を継がなければならないし、そうであるならば個人的な趣味趣向は二の次にして、やるべき事に対して真面目に一生懸命努力することで一人前を目指すという方法もあるのではない

かなと思っています。更に、「花離れした若者」の価値観が分かる私だからこそ見つけられる「若者受けのする花」の形があるかもしれません。

私は学生時代にアパートのベランダでプランター菜園に挑戦したことがあるのですが、その時に最も困ったのは引越し時の土の処分でした。周囲はコンクリートばかりで土を捨てられる場所が見つからず、真夜中に自転車でコッソリ公園に捨てに行ったという苦い記憶が残っています。

だからこそ、土や鉢の回収をしてくれる花屋があると知った時には本当に画期的だと思いましたし、生産者にできる工夫も何かあるのではないかと強く感じました。高々1リットル程度の土の処理に困るなどという感覚は、土と緑に囲まれた福島を一度も出ることなく生きていたなら、きっと実感として分からなかったと思います。それと同じように、花が好きな人にはピンと来ない「何か」が、「若者の花離れ」の理由の1つであるかもしれません。それを見つけ、私なりの解決策を見出すことができたらいいなと考えています。そのためにも、まずは一人前の花農家になるために、生産技術を一生懸命磨いていきたいと思います。

編集後記 福島県初となるプロ野球球団「福島ホプス」が設立された。プロ野球の独立リーグ「BCリーグ」に加盟し、今年4月から公式戦を行うとのことである。監督はヤクルトで大活躍し、その後アメリカに渡り、メジャーリーグも経験した岩村明憲氏が就任した。福島県の野球ファンにとっては独立リーグとはいえ身近な所で「プロ野球」を見る機会が増え、大変喜ばしいことである。今

後、福島県民に愛される球団として、明るい話題を届けてくれることを期待している。 K K

お問い合わせ

あて先 〒960-8681
福島市中町8番2号 福島県自治会館8F
公益財団法人福島県農業振興公社 総務課
TEL 024(521)9834 FAX 024(521)8277
URL <http://www.fnk.or.jp>